

RKU Today

流通経済大学広報誌

AUTUMN 2011

【特集】

海浜実習のすべて

「人間力」を深め、「生命の尊厳」を学ぶ



04 【特集】

文: 田畑 亨 (スポーツ健康科学部講師)

海浜実習のすべて 「人間力」を深め、「生命の尊厳」を学ぶ

10 【学長室だより】

小池田富男 (流通経済大学長)

大学における教員養成をめぐる

12 【連載】ポルトガル語の「窓」から 最終回

日笠博司 (流通情報学部教授)

一英国人が目撃したリスボア大地震

14 Close Up!

流通経済大学

[教職員紹介]

16 【馬場啓一のRKUウォッチング】

文: 馬場啓一 (法学部教授) / 撮影: 齋藤 明 (総務課)

「外向きの学生になれ」 上野裕一学部長

18 【OB/OG 訪問】立川が聞く。

取材: 立川和美 (社会学部准教授)

長谷川昭郎さん (1982年3月卒業・長谷川酒造株式会社取締役)

20 【留学生紹介】

取材: 沖野雅広 (企画広報室)

南 明月さん (中国・遼寧省出身)

「彼女のことを全力で応援します」

趙 琳琳さん (中国・山東省出身)

「子どもたちとの触れ合いが楽しかった」

21

流通経済大学図書館・出版会からのお知らせ

22

NEWS & TOPICS



龍ヶ崎キャンパスとその周辺

風評被害と呼ばれる
愚かしくも悲しい状況が
報道されている。
人間の心の弱さを写し出すような、
哀しい事態である。
人の噂も七十五日とい
古い言い回しがあるが、
日本人は古来から
噂や風評に曝されてきた。
準被災地である茨城県に
キャンパスを広げる
本学の教員職員学生は
噂に惑わされてはいけない。
噂を無視することこそ、
自分たちの土地と生活を守り、
愛することに繋がるのだと心得よ。

【特集】

海浜実習のすべて

「人間力」を深め、「生命の尊厳」を学ぶ

本学スポーツ健康科学部では、2006年の学部開設当初から、「海浜実習」という科目を学部必修科目として展開している。「RKU Today」においても、トピックスのページで毎年海浜実習の活動報告は行っているが、詳細については未だ紹介していない。実は、「海浜実習」という科目は、全国にある体育・スポーツ系の大学・学部のほとんどのカリキュラム内に用意されており、その内容は長い時間を連帯で泳ぐ大遠泳を中心に行われてきた。しかし、流通経済大学の海浜実習は、圧倒的な大自然と生態系のなかで、自他の生命(人生)を見つめるプログラム展開であり、それこそRKUのオリジナリティであろう。流通経済大学のスポーツ健康科学部で展開している「海浜実習」は、「海浜実習」であって、「海浜実習」でないのが特徴である。今回の特集は、スポーツ健康科学部が3泊4日で、毎年実施している「海浜実習」について紹介していく。

文：田畑 亨（スポーツ健康科学部講師）

「海浜実習」とは

学生は、大学入学後、各学部のカリキュラムに沿って規程単位を取得し、社会へと羽ばたいていく。カリキュラム構成は、各学部によって様々であるが、基本的に大きく分けて三つから構成されている。まず、学部全体の方向性を示す「必修科目」がある。この必修科目は学部生全員が取得しなければならない科目である。さらに、「選択必修科目」と「選択科目」で構成されており、これらの科目群は、将来目指す職種や職域を考慮した、より専門的な学習を行う科目が用意されている。

学部はよりよい学習を学生に提供すべく、このカリキュラムを数年ごとに刷新して、より時代に即した内容で講義を展開している。カリキュラムが刷新されていく中で、スポーツ健康科学部で学部開設当初から実施されている科目が今回紹介する「海浜実習」である。



海浜実習のすべて



学習の場は 沖縄県渡嘉敷島

流通経済大学の海浜実習の特徴の一つは、実習地にある。多くの体育系大学の海浜実習は、千葉県の岩井海岸で行っているが、本学スポーツ健康科学部の実習地は、茨城から約一〇〇〇キロ離れた沖縄県渡嘉敷島である。渡嘉敷島を実習地にすることから、他大学とは海浜実習のそもそものコンセプトが違うことがある。

渡嘉敷島は、沖縄県泊港からフェリーで約一時間離れた離島で、人口約七〇〇名の小さな島である。

なぜ、実習地が渡嘉敷島かという点、美しい自然と海がそこにあるからである。緑は青々と、そしてエメラルドグリーンには、珊瑚礁が生息しその周辺には無数の熱帯魚がと暮らしている。美しい自然が残る一方、渡嘉敷島は、太平洋戦争中にアメリカ軍侵攻により、多くの島民が集団自決をするといった歴史を背負っている場所でもある。

このような場所で実習を行う理由は、本実習を通し、「人間力」を高め、「生命の尊厳」を重んじる人間へと成長してもらいたいといった理念に基づいているからである。

大自然の中で行う 「体験型プログラム」

スポーツ健康科学部の海浜実習は、学部開設当初から実施しており、二〇一一年度で六回目を数える。この六回を通して共通していえることは、学生が渡嘉敷島のビーチを見た時の第一声である。学生は口を揃えて、「やべー」と叫ぶ。学生たちは、渡嘉敷島のビーチを目の当たりにすることで、茨城からの長時間に渡る移動の疲れも吹き飛び、実習モードに切り替わるのである。



海浜実習スケジュール

1日目	午前 移動(羽田空港→沖縄県・渡嘉敷島) 午後 渡嘉敷島到着 開校式 夜 ワークショップ型プログラム 小峯実習長による講演
2日目	午前 体験型プログラム (1プログラム1時間半でローテーション) ●レスキューチューブでの救助訓練 ●道具を用いない救助訓練 ●心肺蘇生法訓練 午後 豊見山非常勤講師による講話 夜
3日目	午前 体験型プログラム (1プログラム1時間半でローテーション) ●シュノーケリング ●カヤック 午後 ●オープンウォータースイム 夜 実習の振り返り(レポート作成)
4日目	午前 沖に出て流通経済大学の歌(校歌)を斉唱 閉校式 午後 移動(沖縄県・渡嘉敷島→羽田空港)



●水辺での救助訓練

スポーツ健康科学部で学ぶ学生は将来、教師やスポーツ指導者を目指し学部の門を叩く。スポーツを指導する者は、選手の競技力向上のために指導することはもちろん、現場の安全管理についても最大限配慮しなければならぬ。そういった観点からこの実習では、水辺での救助訓練を実施している。水辺は、陸上に比べ危険度が増し、正しい知識がなければ、溺者はもちろん、救助する側も命を落とす危険性がある。学生は、水辺での救助の難しさを知ること、技術の向上に努めている。

●大自然に身を置き、自らを見つめ直す

沖縄県渡嘉敷島で実習するのは我が国で数少なく、言葉では表現しきれない、美しい海がそこにあるからである。体験型プログラムの中には、シュノーケルやカヤックといった器材を用いて、海中観察を行うプログラムがある。大自然に身を置き、そして無音に近い海中で、珊瑚礁や熱帯魚などの生物を観察することによって、自分自身を見つめ直す。「人間力」を高めるプログラムである。

●渡嘉敷島

渡嘉敷島は、沖縄・那覇市の西方約30kmの慶良間諸島の東端に位置し、約700人が暮らす沖縄本島に最も近い有人島。美しい砂浜や透明度が非常に高いサンゴ礁の海で知られ、ダイビングスポットとしても人気がある。また毎年冬にはサトウクジラの回遊を見ることができ、ホエールウォッチングに訪れる人も多い。

●国立沖縄青少年交流の家

1972年(昭和47)、沖縄返還を記念して渡嘉敷島に設置された青少年のための研修施設。宿泊施設の他に講堂、研究室などの研修施設、体育館、グラウンド、テニスコートなどのスポーツ施設、そして海洋研修場(キャンプ場)などを備える。その素晴らしいロケーションを活かし、さまざまな自然体験や交流の場として全国各地の団体に利用されている。



海浜実習のすべて



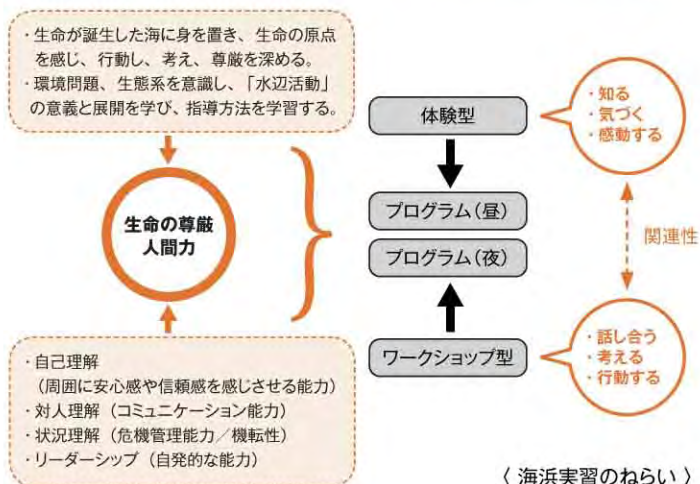
夜もしつかり「ワークショップ型プログラム」

ワークショップ型プログラムは夕食後の時間に約二時間に渡り長時間実施する。日中は海辺での体験型プログラムを実施してきている中、学生にとって、肉体的に辛い時間帯かもしれない。しかし、夜のプログラムでくり返すことで、日中のプログラムが活かされると考えている。それは、本実習の目的は、前述した通り、実習を通し「人間力」を高め「生命の尊厳」を重んじることが出来る学生へと成長してもらいたいという思いが詰まっているからだ。夜のプログラムで様々なことを思考した後で、次の日にまた海へと戻って実習をする。きっと、昨日見た景色が変わってくる。この変化を期待しているのである。だから日中のプログラムで疲

れている中でも、夜のプログラムもしつかりやる意味がある。

二日目の夜は、この海浜実習で非常勤講師を務める、豊見山明久先生の講話を聞くプログラムである。豊見山先生は、沖縄県宮古島出身で、ライフセービング沖縄支部の代表者も務めていらっしやる方である。

豊見山先生は、毎回学生たちの顔を直接見て、講話の内容を決めるという。その内容は、沖縄の歴史、宮古島の文化、豊見山先生の家族の話など様々である。豊見山先生の講話は、常に人を引きつける内容となっており、話を聞いて涙する学生も中には出てくるほどである。



流経大生としてのアイデンティティを持たす

本実習は、三泊四日の集中講義である。そして、大学入学して間もない、六月下旬に実施する。多くの体育系大学の海浜実習の最後のプログラムは、長時間の遠泳を行うのが伝統である。しかしながら、本学の実習では遠泳は実施せず、流経大生としての誇りと、アイデンティティを持たせるプログラムを実施する。それは、約二〇メートル沖に全員で泳ぎ、そこで流通経済大学の校歌を熱唱するというものである。沖合二〇メートルは、言うまでもなく足は到底つかない場所で、学生は恐怖感を覚える。その場所まで、お互いがお互いを助け合いながら、泳いでいく。

合唱後は周りの仲間と抱き合いながら実習の成功をお互いに讃え合う。まさに、学生が真の流経大の学生になった瞬間でもある。

海浜実習は、スポーツ健康科学部の必修科目である。必修科目は前述した通り、この実習を履修しなければ、いくら他の科目で卒業単位を満たしていても卒業できない科目である。言い換えれば、流通経済大学スポーツ健康科学部を巣立つ学生は全員、この海浜実習を経験するので



ある。だから、学年が違ってても、海浜実習の話で先輩後輩とのコミュニケーションが図れるのである。

三泊四日という期間、沖縄県渡嘉敷島という場所で、流通経済大学スポーツ健康科学部の学生は「海浜実習」を行う。しかも大学に入学してから約三ヶ月という大学生活になれ始めてきたころに実施する。学生にとっては、長い人生において、一五〇名前後の仲間とともに集団で行動するのは、最後かもしれない。学生の中には、集団で行動するのが苦手を感じる者もいるが、この海浜実習を終えるころには、すべての学生が達成感に満ちあふれ、今後の大学生活に対し意欲的に取り組もうとする姿が変わっていくのである。

【学長室だより】

大学における 教員養成を めぐって

学長 小池田富男



vol. 10

Tomio Koikeda
Gakuchoshitsu Dayori

戦後の我が国において初等・中等教育に携わる教員の養成は、戦前の師範学校制度への反省を踏まえ、「大学における教員養成」と「開放制の教員養成」という二つの大きな柱のもとで行われてきた。それによって、戦前とは異なる方向において学校教育制度が充実されただけでなく、戦後の我が国の経済的、文化的発展にも大きく貢献してきた。

特に、教職の課程認定を受けた大学で一定の単位を修得すれば教員免許状が取得できるという「開放制の教員養成」のもとで、私立大学が教員養成の八割を担うようになり、また小学校教諭ですらその半数近くが教員養成系の学部・大学以外の出身者で占められるようになった。本学もまた、すでに経済学部一学部時代に課程認定を受け、これまでも多くの社会科、商業科等の教員を送り出して、地域社会に貢献してきた。平成二三年度からは、淑徳大学通信教育部との教育提携によって、在学中に小学校教諭二種免許状が取得できることになり、全学部の多くの学生たちが初等・中等教育の教員を目指して学修に励んでいる。

抜本的に変える必要がある程のものだとは思わない。

「答申」の内容が、まず人材育成についての「明確な理念」の確立を求め、そしてまた「専門的職業人」に相応しい「資質や能力」を教育課程でどう担保しうるかにも言及し、更には現場で応用できる実践的な知識と能力をいかに身に付けさせるかを問うものである限りでは、何も教員養成だけに限らず、高等教育機関としての大学の人材育成において共通に問われている課題である。そしてこの間のFD活動や「認証評価制度」の導入など、教学改革を通じた「教育の質保証」等によって、これらの諸課題についても相当程度改善されうると考えている。

ところで、戦前の師範学校制度の創設に深くかかわったのは、初代文部大臣の森有礼である。「諸学校を維持するも畢竟国家の為なり」、「学政上に於ては生徒其人の為にするに非ずして国家の為にすることを始終記憶せざるべからず」と、教育は近代国家の形成と「富国強兵」政策のための重要な一環に位置づけられていた。そこで教員は、学問的知識の伝達者としてよりも「国家必要ノ目的ヲ達スル道具」、すなわち国家の遂行者として養成された。確かに師範学校制度のもとでは、教授法に特化した教員養成が行われ、教育のスペシャリストの育成としては効果的であったが、その分、画一的な人材育成になり、結果として教員集団としての学校組織そのものが硬直的にならざるを得なかったことは、これまでも指摘されてきたとおりである。

しかし、現代における初等・中等教育は、たんなる知識の一方的な伝達でもなければ、一つの理想的な型にはめて人間を育てることでもなく、科学や文化、社会の規範や伝統を学ばせることによって、多様な個性を持った人格形成

いかなる分野であれ、また人間であれ、たかだか二年程度の大学院教育を受けたからといって、すぐに第一線で活躍できる高度な技術を持った、「専門的職業人」を育成できるものではない。現場での経験と研修を通じて、長期にわたって育成されるものであろう。今日の熾烈なグローバル競争の時代にあつて、世界をリードできる個性と才能を持った人材を発掘し育成するような教育を行うためには、教育技術の修得もさることながら、むしろリベラルアーツ教育の充実によって、人間として魅力をもった多様な教員を養成し、配置することが必要であろう。教育改革には、こうした教員養成制度の改革だけでなく、ミスマッチを防ぐた

をお手伝いし、支援することにある。またそれは、個々の教員の資質や能力だけに依存するのではなく、何よりも組織としての「学校の教育力」に依存する。教育現場において生徒の多様な個性や才能を伸ばすためには、多様な個性を持った魅力ある教員の存在が不可欠であり、それを活かせるだけの学校長のマネジメントが必要であろう。それゆえ教員養成は、教育大学や教育学部といった専門機関に限らず、それらをも含めて、養成と採用のルートを多様化することが望ましい。

現在、教職課程の質的水準の向上をめざして教員免許制度の抜本的改革が大きな政策課題になっており、教員養成課程六年制の導入をはじめとして、さまざま議論されていることは周知のとおりである。平成一八年七月の中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」では、現行の教員養成及び教員免許制度の現状とそれが抱えている諸問題について言及されているが、少なくとも私にはそれらの指摘が、必ずしもこれまでの教員免許制度、教員養成制度の在り方そのものを

めの初任者への任期制の導入なども検討されるべきではなからうか。



森有礼（もりありのり）一八四七～一八八九
薩摩藩出身の外交官であり、政治家。また一橋大学の創設者で、福沢諭吉、新島襄らと並ぶ明治の六大教育家の一人。明治八年の第一次伊藤博文内閣では初代の文部大臣を務めた。一國の独立の基礎は教育にあり、新しい国家の形成には教育改革が必要という信念を生徒持ち続け、文部大臣として精力的に小学校令、中学校令、帝国大学令、師範学校令などを発布して、教育の体制を中央集権的、国家主義的に整え、爾来今日に至る学校制度の骨格を造り上げた。



【学長の活動】 2011年7月～9月

7月

- 2日～3日 日本私立大学連盟学長会議出席
- 7日 茨城県立伊奈高校訪問
茨城県立守谷高校訪問
- 9日 高等教育振興に関する懇談会開催
(龍ヶ崎キャンパス)
- 13日 野村證券株式会社新井執行役員来訪
- 15日 日本経済新聞社
大学トップマネジメント・セミナー出席
- 16日 日本体育協会、日本オリンピック委員会
100周年記念式典出席
- 19日 拡大入学入試協議会開催
経済学部親和会春季納会出席
- 25日 日通学園第280回理事会・
第110回評議員会出席

8月

- 2日 北京物資学院姜旭教授来訪
社会学部末広会春季納会出席
- 6日 株式会社ジャパン・イマジネーション
木村会長と対談
- 8日 教員免許状更新講習実施委員会開催
- 27日 前西武ライオンズ投手工藤公康氏来訪

9月

- 1日～2日 日本私立大学連盟
教務担当理事者会議出席
- 5日 日本私立大学連盟理事長会議出席
- 24日 社会学部観光クラブ総会出席
(新松戸キャンパス)
- 26日 北京物資学院御一行来訪
- 28日 荒俣宏氏と対談



2005年にポルトガル郵便が発行した「リスボア地震250周年」記念切手。© CTT Correios de Portugal

最終回

一英国人が目撃した リスボア大地震

一七五五年二月一日。ポルトガル帝国の首都リスボアは穏やかな朝を迎えていた。この日は万聖節。死者を弔うカトリックの祝日だ。晩秋の空は雲ひとつなく晴れあがり、北東からのそよ風が心地よかった。これから起ころうとする破壊の予兆など何ひとつ感じることではできなかった。そして午前九時三〇分過ぎ――

ポルトガル南西部の大西洋沖で海底岩盤の大破壊現象が起こる。「一七五五年地震」(O Terramoto de 1755)の名で記憶されるヨーロッパ史に類例のない巨大地震である(推定マグニチュードは八を超える)。

地震の刻限、日常の営みはすでに始まり、教会では祝日のミサが執行されていた。

家々の暖炉や煙突から、教会へ信徒が献じた蠟燭から、相次いで火の手が上がる。火災の惹き起こす旋風も加わり、火勢は増し、延焼広がり、震動(三度にわたる)による建物の倒壊とあいまって、華麗を誇った首都の中枢部(01)は、文字どおり灰燼の巷へと化してゆく(02)。

覚えた私は、母子の手を引き、戸外への脱出を執行する。が、うず高く盛りあがった瓦礫と死体の山にたちまちゆく手を阻まれる(03)。その刹那、母子は崩れかけの建物から降ってきた巨石の直撃を受け「粉々に砕かれた」。

英国人が辿り着いたのはサンパウロ教会前の空き地。現在ロッシオ広場がある附近である。教会は数分前に倒壊していた。

――異様だったのは、生き残りの連中が、キリストの磔刑像やら諸聖人の像を携え、接吻するよう私にしつこく勧めてくることであった。アイルランド人(カトリックであろう)も現われ、同じことをさせようと、聖アントニウスの像をぬつと差し出す。アイルランド人の腕を優しく押しやり、私はこの種の信心からは無縁でありたい、と伝えると、彼は怒りの表情を浮かべ絡んでくる。「君は神の存在を本当に信ずるのか」と。私は考える。瓦礫の中から馬鹿げた木のきれはしを拾い上げ信心を試す道具に用いる、そんな「狂騒の輩」に限って、死にゆくわが子をすら平然と見殺しにするものだと。

そこへ再度の震動が来た。信じがたい光景を引き連れて。英国人は次の如く述べる。

――周囲から戦慄の叫びが一斉に起こる。「海(実際はむろんテージョ河)が膨れあがっている! 皆、死んじまうぞ!」

視線をやると、テージョには、水の塊が突き立ち、それが山の如く盛りあがり、泡立ち、唸り声を上げて迫る(04)。建物が密集する地帯を逃れ河べりに安全を求めた人々であるが、必

地震の襲来など夢想だにしていなかったリスボアの人々。この街に暮らす英国人某にとってもそれは同様であった。ロンドンの友人へ宛てた書信(二月八日付)に彼は大略こう記す。

――ペンを走らせている便箋と机とが振動を始めた。この刻限、何輛もの馬車が、ペレントリベイラ宮(王宮)を結ぶ大通りを行き交う。それが惹き起こすガラガラという振動こそ、揺れの元兇か。違う。耳を澄ますと、「くぐもつた雷鳴」のような怖ろしげな音が地の底から響いてきた。

初回の震動はかなり長く継続した(史料によれば「七分間」)。この点、複数の証言が一致する。

――戸外へ出るか、屋内に留まるか。決断しかねているさなか、揺れは激しさを加える。私の住まいは高層住宅の第二層(日本風というと三階)であった。第三層より上は崩壊し、石材砕け散り、舞い上がる砂塵のため、太陽光が遮られた。光が戻り周囲を見渡すと、見知らぬ婦人が子を抱き戸口にうずくまっている。同情を

死の逃走空しく、多くが津波に呑まれ、退き波によって沖へ流される。私とて危機一髪であった。河岸からかなり距離はあったが、腰の上まで水は来た。地面に落ちた大きな梁(はり)がみついておらねば助からなかったであろう。

テージョに浮かぶ船から津波を目撃した英国人船長がいる。船長は本国へ宛てた書信(二月一日付)に大略こう記す。

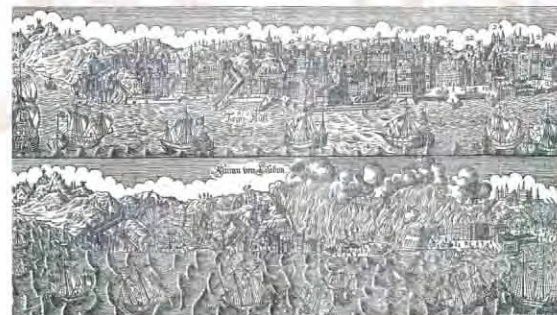
――群衆が河べりに集まるのを待ち構えたかのように、テージョの水が膨れはじめる。水は軽々と堤防を越え、リスボアの街の低部(現在「バイシャ」と呼ばれる「帯」に溢れ出た。哀れな住民を、この異変が、さらなる恐怖の淵へ叩き込む。右往左往する住民。彼らの叫喚は、船上にいる我らの耳にもはつきり聞こえた。

上掲の英国人ふたりは、テージョを遡りリスボアの中枢部へ達した津波の高さを、二〇フィート(約六メートル)および一六フィート(約四八メートル)とそれぞれ伝える。前代未聞の大津波にリスボアの象徴といふべきリベイラ宮もあえなく崩壊する(05)。

繁栄の都を一昼夜で廃墟へと変えた巨大地震。持てる者も持たざる者も「同一レベル」への回帰を余儀なくされ、きのうまで安逸を貪っていた大家も、ちりぢりに野へ放り出され、その日を生きる便宜にすら事欠き、癒しの拠りどころも失い……と、本稿の主たる案内役を務めてくれた英国人は、生き延びた者へ重くのしかかる精神的ダメージに思いを寄せつつ、仏教の無常思想にも相通するかのような感慨を書き綴る。



01 1700～1725年頃のリベイラ宮。右に東洋貿易を統轄するカーザ・ダ・インディアが隣接する。震災前のリスボアのパノラマを描いたアズレージョより。国立アズレージョ博物館(Museu Nacional do Azulejo)蔵。Paulo Henriques ed., Lisboa antes do Terramoto. Grande vista da cidade, entre 1700 & 1725, Gótica / Chandeigne, 2004より



02 震災前および地震さなかのリスボア。ドイツの銅版画。リスボア市博物館(Museu da Cidade, Lisboa)蔵。Ana Cristina Araújo, O Terramoto de 1755. Lisboa e a Europa, CTT Correios de Portugal, 2005より

ポルトガル語の「窓」から

〈全4回〉

この言語から広がる豊穡の世界へようこそ!
ポルトガル文献学の日笠博司教授が案内します。
日笠博司(流通情報学部教授)
Hino Hiroshi



03 瓦礫のすき間から児童の救出に成功! それをノッサ・セニョーラ・ダ・エストレーラ(星の聖母)へ感謝するため描かれた奉納画。リスボア市博物館蔵。O Terramoto de 1755より



04 津波。小舟でテージョの川面へ逃れる人々。絶るは神の慈悲のみ。オランダの銅版画。リスボア市博物館蔵。O Terramoto de 1755より



05 津波と火災に破壊されるリスボア中枢部。ドームの見えるリベイラ宮もこのとき瓦礫と化した。ドイツの銅版画(部分)。リスボア市博物館蔵。O Terramoto de 1755より



[国際交流課]
田牧靖央 職員

学内での国際交流 活性化を目指して

「〇〇授業の教室はどこですか?」、「アパートを紹介してくれませんか?」と、外国人留学生のよろず相談窓口だった留学生課に代わり2007年10月、日本人学生の海外留学の支援業務とを一元的に対応するため、国際交流センターが設置された。国際交流センターの一員となり4年経つが、日本人学生の留学の支援業務を行う機会はまだまだ少ない。また、本学には世界12カ国、約500名の留学生が在籍しているが、学内で留学生と日本人学生が交流している風景もまだ少ない。社会ではグローバル化が叫ばれ数十年経つが、学内では発展途上の段階。

そんな中、海外に興味のある日本人学生と国際交流に積極的な留学生の有志によって、国際交流サークルBBC (Bridge Between Countries) がつくられた。活動内容はまだまだ手探りの段階だが、学内の国際交流の活性化、後にはグローバル化の一翼を担うことを楽しみにしている。流経大の中で気軽に留学気分が味わえる日は近いかもしれない。



[スポーツ健康科学部]
田崎健太郎 教授

ジョギングの普及にも 貢献

東京教育大学出身。卒業後は、国立競技場(現:独立行政法人日本スポーツ振興センター)に就職。国立競技場では、我が国のスポーツ振興に尽力された。中でも、「ジョギング」という言葉は、先生が、国民に走ることをより身近にするために、この言葉を用い、世の中に普及させた人物である。その後大学に職の場を移し、教鞭をとられる。また、アイススケート部の部長も務め、オリンピック選手も輩出している。本学には2010年に着任し、「スポーツ経営学」や大学院の授業を担当。

毎週1回はテニスで汗を流し、大学院生を中心に毎週実施している勉強会では、夜遅くまで学生の指導に当たり、学生たちと食事を共にした後、2時間かけて茨城県筑西市のご自宅まで車で帰られる。まったく歳を感じさせない先生である。

そんな若々しい先生は、「若さはいろいろな意味で自分を変えることができる可能性があるという。だから若さの特徴を考え自分をいい方向に変える努力をするよう」と学生にメッセージを送っている。(田畑 亨・記)



[法学部]
大場敏彦 教授

労働法受講者へ 望むこと

1995年に社会学部に着任した後、2001年の法学部開設に伴い法学部に移籍しました。労働法その他、社会保障法やゼミを担当しています。

学外では、厚労大臣から委嘱・任命され、茨城紛争調整委員会の委員として、企業と従業員の間で起こった労使トラブルの円満な解決を図るための斡旋を行っています。当事者の主張が真っ向から対立するので、両者が納得する解決策を導くのに一苦労しています。

こうした斡旋をして感じることは、労働法の知識を、従業員だけではなく企業ですらあまり持っていないということです。また、自分の利益を主張するばかりで、理屈が通らないことを言い立てることが多いということです。

労働法を受講する学生の皆さんには、労働法の正確な知識を身につけること、そして相手の主張・立場を理解し、それをふまえた上で主張すべきことを理路整然と述べるができるようになってもらいたいと思います。

もちろん、労使トラブルの当事者にならないことが最善なのですが。



[流通情報学部]
古田朱美 教授

多様に展開する 中国のことば

近年中国の変貌は言うまでもないが、ことばに関しても同様に変化している。

30年前私が流通経済大学に赴任した頃、学生たちに中国では男女に関わらず、呼びかけのことばは「同志」と教えた。ところが、今では旧中国や台湾で使われていた「階級性の意味を含む語彙」である「先生」(Mr.)、小姐(Miss)、老板(社長)などの呼称が復活した。

さらに、日中国交40周年を迎えようとしている現在では、日本語を音訳した「烏冬」(うどん)、「カラOK」(カラオケ)、「一級棒」(一番)の語彙が中国語の市民権を得ている。

外語学を勉強することは、単なる手段のためだけではない。その社会の変化や人々について学ぶことでもある。そんなことばの面白さを日々学生たちに伝えている。

趣味は若い頃に始めたテニスを今でも続けている。そして昨年は初めて富士登山にチャレンジした。長くつらい山行だったが、頂上から拝めた日の出の感激は筆舌に尽くしがたい。



[社会学部]
米原立将 講師

学ぶ主体として 一ささやかな経過報告

名古屋市に生まれ、大学入学とともに関東に来ました。法学部を卒業しましたが、母子関係に興味を持ち、教育学の大学院に進学。現代の子育てについての研究を進める中で、現実の子どもとの関わりを求め、修士号取得後、保育士の資格を取得しました。ピアノの実技などもあり、国家試験はとても難しかったです。相談機関で就学前の子どもの遊戯療法を担当した後、認可保育園の園長になりました。夜間保育や休日保育、学童保育などを行っていたので、実際の保育を行うことは当たり前で、350日以上勤務した年もあり、とてもいい経験をしました。その後の職場でも、「現実の親子と向き合う」ことをモットーにさまざまな出会いの中でたくさんのことを学びました。

本学に赴任して3年目、社会学部で「保育原理」などを担当し学生や教職員の皆さんとの出会いからさまざまなことを学んでいます。現在の研究テーマの一つは「ケアとしての保育」。学生にも「自ら学ぶ楽しさ」を感じてもらえるよう講義に臨んでいます。



[経済学部]
呉 軍 准教授

商業・流通の役割を 探求して

私の専門は商業論です。商業の需給調整における役割は商業論の理論命題のひとつです。私は大学院の時から生鮮食品を中心とした食品の流通システムについて実証研究を重ねてきました。この研究テーマを選んだのは、食品は他の商品より生産者の規模が比較的小さくて、そこに期待される商業の役割が大きいからです。そして大学院の時は日本の生鮮食品の流通の要であります卸売市場、中国の大都市の生鮮食品の流通システムの研究を行いました。流経大に赴任してからは小売段階を中心に研究を進めてきました。

大学では経営学科の「流通概論」を担当しています。商業・流通論の学問としての性格は、商品の市場問題を取り上げていますが、個別企業の市場問題だけではなく、まち、地域、社会にとっての意味合いも考えますので、学生にとっては捉えにくいところがあります。講義ではなるべくケース・スタディの形式を取り、商業・流通論の考え方を学生に伝えています。

馬場啓一の RKU ウォッチング

撮影：齋藤 明（総務課）

RKU Watching



●上野裕一／うえの・ゆういち

1961年、山梨県出身。日本体育大学大学院修士課程修了後、日本体育大学助手、ニュージーランド・オタゴ大学客員研究員を経て、1990年、本学社会学部専任講師に就任。同時にラグビーフットボール部監督となる。現在はスポーツ健康科学部教授、同学部長、ラグビーフットボール部CEOを務めると同時に、日本ラグビーフットボール協会競技力向上委員会委員長として、ラグビー競技の発展に尽力している。



Keiichi Baba

名と不屈の闘志は全国に鳴り響いている。本学ラグビー部の躍進も、上野学部長を中心に達成されたものだ。

「ラグビー部の監督であると同時に、本学の体育学習の一翼を担ってきた人間として、よくぞここまで、という思いはあります」

「裾野を広げ『後』に続くを信ずる」の精神でやっていくこと、それが学生スポーツの根本原理だと思います。ラグビーで言う「ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワン」すなわち「一人はみんなのために、みんなは一人のために」です。単年のトップや優勝を狙うのとは、発想が違うのです。四年で卒業していく学生を鍛え上げ、常に上位にあることを心掛けるには、それなりの思想というか、原理原則

のようなものがあってほしい」と

自信と実績に裏打ちされた発言だから、大いに重みがある。

「本学の学生は素直です。かつ、龍ヶ崎キャンパスは理想郷のような恵まれた環境にある。さらには高校大学一貫してスポーツに邁進できるようにと、柏には付属の高校を有すると、まことに行き届いています」

そういう環境と状況において、本学学生の姿勢は如何ですか。

「どちらかというと内向きの学生が多いように思います。今後益々世界における日本人の存在感が必要とされます。その優秀性は鳴り響いていますから、学生諸君はどしどし海外に雄飛し、自らの世界を切り開いて欲しい。外向きの目をもっと持っていた方がいい」



Yuichi Ueno

【第16回】

スポーツ健康科学部
上野裕一
学部長

「外向きの学生になれ」

野田総理大臣が民主党の代表戦の際に、これまでのいきさつは水に流して「ノー・サイド」で行きましょう、と宣したのは話題になった。「ノー・サイド」はラグビー用語である。

「二〇一九年にラグビーのワールド・カップ日本開催が、大きな目標としてある日本ラグビー界としては、大いに歓迎すべき発言でした。これで（サッカーばかりではなく）ラグビーにも、日本国民が目を向けてくれるといい、と思いました」

語るのはスポーツ健康科学部の上野裕一学部長である。

一九九〇年に本学社会学部へ赴任されて以来、学内外においてラグビー中心にスポーツの振興に力を尽くされ、二〇〇六年にはスポーツ健康科学部創設に伴

い異動。二〇一〇年に学部長となり、腕を振るわれている。

「本来アングロ・サクソンのスポーツであるラグビーを、アジアの人間が自分たちのスポーツとして、ひたむきにプレイしていることに、彼らは一様に驚きます。それが日本人を始めとする東半球の人間に愛されているのが、不思議でならないらしい」

痛快な話である。

またワールド・カップ開催の旗振り（日本ラグビー協会執行理事）として重責を担う上野学部長には、ぜひともこれを成功裏に終わらせたいという決意がある。

また、下位のグループから一段ずつ這い上がり、いまや一部のトップとして君臨するまでに成長した流经大ラグビー。その

趣味であれば
大失敗も許されますが、
仕事である以上、
常に合格点が
求められます。

— 現在は、日本酒造りに携わっていらつしやる長谷川さんですが、大学時代はどのように過ごされていたのですか？

私は経済学部経営学科で、マルクス経済学を専門とする浜田先生のゼミに所属しました。「マルクス経済学」は、今の仕事とは直接は関わりませんが、大学時代に学んだことは自分が様々なことを考えるための核となっていると感じています。「マルクス経済学」についても、内容的に反発を覚えた面や矛盾点を感じたこともありましたが、「弱者」に対する視点を持っていることにはとても魅力を感じました。現在でも、第三世界における課題などに対しては、今日的な意義を持つ考え方ではないかと

基本的には、この仕事は「生物」を育てる行為なんです。ただ、相手はものを言わない「食品」であり、気温、水、米など様々な不確定な因子が関わってきます。そういう中で常に様々な微調整をしながら仕事を進めていかなくてはいけないということが難しさでしょう。完全に機械に任せることもできませんし、マニュアル通りにもいかないわけです。また単なる「カン」だけでもだめで、勉強を続けた上での判断が必要となります。ただ、そのように手をかけていく中で思いもよらない結果が出ることもあり、そうした意外性がまた、醍醐味といえると思います。

こうしたことは、この酒造りの仕事に限らず、あらゆる仕事にもある側面ともいえるでしょうね。対人関係なども、これと同じですからね。

— 「酒造り」というお仕事は、
どういったとお考えですか？

まず、必要条件として「安全」「安心」があると思います。食品を扱っている以上、これは何よりも優先されますね。そして十分条件として「利益」です。これは常に一定以上の質の酒を造り続けると

OB/OG訪問 立川が 聞く。

酒どころとして知られる新潟県長岡市で、天保13年(1842)創業という歴史ある蔵元、長谷川酒造株式会社の取締役をされている長谷川昭郎さんにお話を伺いました。

第14期生
(1982年3月 経済学部卒業)
長谷川昭郎 さん
Akio Hasegawa

〈取材〉
立川和美 (社会学部准教授)



— 当時のゼミでも、まじめで勉強熱心な友だちが多く、社会主義的な思想などについて、大いに話しあいましたね。卒業論文のテーマもマルクス経済学について論じました。その他にも、簿記の加古先生や、統計学の鈴木先生の授業なども本当に面白かったですね。小池田先生は現在学長でいらつしやりますが、私の在学していた当時は赴任されたばかりで、経済原則の授業を受け、「商品の価格を決めるのは消費者である」という内容のことを指導されたのが、当時の私にはとても印象的でした。この言葉は、現在の私の仕事にも大きな意味を持っていると思います。

— 大学時代は、相当勉強された

— このお仕事に特有の難しさや面白さがあると思いますが、

— ということだと思います。趣味であれば、ある時は大成功、ある時は大失敗ということが許されますが、仕事である以上、常に合格点が求められます。今は、お酒の楽しみ方も変化してきています。かつては、お酒を飲むという行為自体を楽しむのが主流でしたが、最近はお酒を飲むという行為が、おもしろいもの、おいしいもの、仲間や親しい人と、おいしいものを食べながらお酒を飲むという傾向が見られます。つまり、ある意味で酒は脇役というケースも多くなってきたというわけです。そうした中で利益を出すためには、顧客がどういったものを好んでいるかを調査し、それに合った製品を作っていくことが大切でしょうね。

— 最後に流経大生にひとこと、
お願いいたします。

月並みですが、大学時代はともかく勉強にスポーツに、とことん

— のですね？

— いやいや(笑)、そうでもありません。やっぱり一番楽しかったのは、龍ヶ崎や佐貫の先輩のアルバイトに転がりこんで過ごしたことです。ゼミで夏休みに合宿をしたことも印象的です。それから、当時大学に十合先生という方がいらして、デパートで顧客統計のアルバイトなどもしましたね。

— 卒業後は、すぐに今のお仕事に就かれたのですか？

— いいえ、一年普通の企業に勤めて、その後、この仕事を始めました。家業ではあったのですが、酒造りを一から勉強を始めて、今、おおよそ三〇年ですか。

— 打ちこんでください。先生や友達など周りの人から学ぶことはたくさんあります。社会に出ると、学生時代のように友達と会って話すという機会も得にくくなります。社会人になって大学時代の友人に会おうとすると、かなり前から計画して、ようやくみんなが集まるなどということが普通ですので、大学時代にできることを、懸命にやっておきたいですね。

— それから、講義は積極的に参加してほしいと思います。私語などは、周りの学生や先生の迷惑になりますから絶対慎むべきです。周りの人に迷惑をかけるということとは、社会人にとってはごく当たり前のマナーですが、大学においてもこれは守ってほしいですね。

Tachikawa hears.



お仕事の性格上、なかなかお休みがとりにくい長谷川さんですが、現在は自転車が趣味ということで、30キロぐらいの距離であれば、山へ海へとお出かけになるそうです。穏やかなお話しぶりの中で、「大学時代に戻れたら、ぜったい自転車部に入部したいですね」と、活動的な一面がうかがえました。

【図書館】

2011年度 第1回 読書コメント大賞 受賞作品決定

〈2011年度 第1回読書コメント大賞 17作品〉



流通経済大学図書館が開催する「読書コメント大賞」は、学生が本を読んで感じたことなどをポップ広告風の作品にし、その中から優秀な作品を選考する企画です。

7月に行われた第1回の「読書コメント大賞」には252点の応募があり、17点がコメント大賞に、31点が優秀賞に選出されました。

- ① スポーツ健康科学科3年 佐藤雅子「折れそうなの鍛え方」日垣隆 著(幻冬舎) ② スポーツ健康科学科3年 星 亜佑「井深大の心の教育」井深大 著(コマックス) ③ 自治行政学科1年 真中郁弥「新しい日本新しい経営」福盛和夫 著(TBSブリタニカ) ④ 社会学科2年 海東千奈美「筆談ホステス」斉藤里恵 著(光文社) ⑤ 国際観光学科1年 高橋美穂「西の魔女が死んだ」梨木香歩 著(新潮社) ⑥ ビジネス法学科1年 長居弘樹「働く君に贈る25の言葉」佐々木常夫 著(WAVE出版) ⑦ 社会学科2年 三村のりこ「コトバのキモチ」ワタシの好きなあのフレーズ♪」歌ネットドットコム 編(角川書店) ⑧ ビジネス法学科1年 中井英利華「都会のトム&ソーヤ」はやみねかおる 著(講談社) ⑨ 経営学科2年 山田佳奈「変身」東野圭吾 著(講談社) ⑩ 経済学科2年 柚田将平「星の王子さま」サン＝テグジュペリ 著(新潮社) ⑪ 社会学科2年 御田佳未「ねえ、おかあさんさかして」花崎みさを 著(草の根出版会) ⑫ 経済学科4年 千葉 淳「産業革命の群像」角山 栄 著(清水書院) ⑬ 経営学科1年 山崎あずさ「もの食う人びと」辺見庸者 著(角川書店) ⑭ 社会学科2年 黒木裕矢「子ども力を信じて伸ばす」中村桂子 著(三笠書房) ⑮ 経営学科1年 川口 勝「いのちの食べかた」森達也 著(理論社) ⑯ 社会学科2年 大竹浩平「里親を知っていますか?」汐見裕幸 著(岩波書店) ⑰ 社会学科2年 柿崎康平「いじめの光景」保坂展人 著(集英社)

【出版会】

新刊のお知らせ

移動行為は、人間社会の諸活動の基礎であるがゆえに、その本質、意義の理解が軽視されがちである。しかしながら、個別移動行為はあらゆる交通の基礎としてあり、その根幹をなしている。

交通は、人間個々の要求に応じた自身の私的交通に始まる。

私的交通システムとは、個別主体の具体的諸活動を実体的に規定する交通課程を包括したものであり、一連の交通過程、ネットワークに深く浸透した交通関係を指している。そこに、交通主体

の日常、社会活動の中心があることを考えれば、在るべき社会関係、そして、その持続性を育む環境との間に行われるダイナミックな有機的関係こそが、新たな社会パラダイム形成の鍵になっている。

本書の問題意識は、正に、そこにある。私的交通システムに焦点を当てて交通問題を論じようとするアプローチは、改めて原点に立ち返り人間社会の在り方を実体的に再検討し、持続可能な社会へと再構築する、交通学からの試みである。



『私的交通システム論』
生田保夫 著
A5判・上製・286頁・
3,675円(定価)



——三月一日に入籍をされたそうですね。おめでとうございます。お二人は中国ではなく日本で出会い、入籍したということですが、そもそも日本に留学しようと思った理由は何でしょうか。

南 日本に留学していた従姉に日本の話を聞いたのが始めです。私の子どもの頃は、大連には鉄道がなく、主な交通手段が自動車だったので、移動の所要時間がなかなか読めず、予定を立てるのが難しかったことを覚えています。でも、日本の鉄道(JR)の話聞いて、その利便性に興味をもち、日本に行つて物流について勉強をしたいと思つたからです。

趙 私は中国で貿易に関する勉強をしていて、「国際」「法律」「語学」について特に力を入れて取り組んでいました。特に語学は、英語と日本語(隣の国ですから)に力を入れていて、

もっと勉強したいと思つて留学を決意しました。

——やりたいことが明確なお二人ですが、流経大では何を専攻していますか。

趙 私は指導教授である林克彦先生のもとで、モーターシフト(※1)や3PL(※2)について研究し、現在卒論の作成に取り組んでいます。まもなく卒業ですが、流経大で学んだことを活かしつつ、好きな仕事に就ければと思つています。

南 ゼミでは、基礎学力の向上のため、山岸直基先生が、レポートの書き方や資料の集め方、パワーポイントの作成の仕方などを丁寧に教えてくれます。後期からは、興味がある「物流」を中心に取り組んでいきたいと思つています。

——龍ヶ崎市の中学校で行われた総合学習(留学生とのふれあい)の時間に参加してくれた趙さん。日本の文化に触れてみてどう

でしたか。

趙 昔話や折り紙を教えてもらいました。子どもたちが一生懸命私たちにわかるように教えてくれたことが、嬉しかったし、短い時間でしたが楽しかったです。

——子どもたちとすぐ仲良くなった趙さんの話を聞いて南さんは、どう思いますか。

南 彼女は、誰とも仲良くなれるし、人との「出会い」や「つながり」をととても大切にしています。そんな彼女を僕はすごく尊敬しているので、卒業後は「営業」や「サービス業」などの人と接する仕事を勧めたいのですが、何より彼女が「やりたい」ということを全力で応援していきたいと思つています。

※1 モーターシフト
地球温暖化対策に伴うCO2削減のための一つ。トラック貨物輸送を地球に優しく、大量輸送可能な海運または鉄道に転換すること
※2 3PL
荷主の立場で、ロジスティクスの企画・設計・運営を行う事業のこと



留学生紹介

vol.15

遼寧省大連市出身の南さん、山東省出身の趙さん。中国から留学生として来日した2人は、日本で出会い、ゴールインしました。
取材:沖野雅広(企画広報室)



「彼女の力を全力で応援します」
流通情報学部流通情報学科1年 南明月(ナン・メイゲツ)さん
「子どもたちとの触れ合いが楽しかった」
物流情報学専攻修士課程2年 趙琳琳(チョウ・リンリン)さん



全学

10月

- 1日 ● 秋学期授業開始
- 秋学期入学式
- 8日 ● 2011年度春学期卒業式
2010年度卒業生の卒業を祝う式典
- 29・30日 ● つくばね祭(龍ヶ崎)

11月

- 19日 ● 三宅雪嶺記念資料館講演会

12月

- 24日～ ● 冬季休業

就職関連

- 10月 ● 第5回就職ガイダンス
[履歴書・エントリーシート対策]
- 4年生内定者による
就職活動体験発表会
- 留学生就職ガイダンス

11月

- 第1回就職セミナー
[企業が求める人材像]
- 第6回就職ガイダンス
[OB・OGからのアドバイス]
- 公務員採用試験説明会
- 第7回就職ガイダンス
[面接実践指導]

12月

- 女子学生ガイダンス
- 第2回就職セミナー
[企業が求める人材像]

[編集後記]

●9月2日に野田新内閣が発足し野田首相は、組閣後の記者会見で東日本大震災の復興と東京電力福島第一原子力発電所の事故の収束を重点項目として取り上げましたが、他にも歴史的な円高への対策等多くの難問が山積しています。これらの難問に対する新内閣の取り組みとその成果に国民の期待は大きなものがあり迅速な対応が望まれています。

●8月下旬に太平洋上で発生した台風12号は、時速10キロほどのスピードで北上し9月3日に四国に上陸しました。台風自体の雨に加え南方から湿った空気が入り込み紀伊半島を中心に豪雨を降らせ想像を絶する山崩れ、泥流、濁流がいたるところで発生し、家屋の流失、損壊等により、誠に残念なことに多くの尊い人命が犠牲になりました。衷心より哀悼の意を表する次第でございます。また、お怪我をされた方々そして家屋の流失、損壊等により被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

●さて、10月1日から秋学期の授業が始まりました。9月9日に春学期の成績発表があり、成績が良かった学生は満足感に浸り、一層の努力が必要とされる学生は後悔したのと思います。しかし、それは春学期のことであり、成績が良かった学生でも努力を怠れば成績は下がるし、努力を必要とする学生は成績を良くするために懸命に努力しなければなりません。努力は必ずや報われるはず。

改めていうまでもないかもしれませんが、学生一人ひとりが目標に向かって邁進することを心から望んでいる次第です。

(編集子)

前西武ライオンズ投手 工藤公康氏講演

3



8月27日、前西武ライオンズ投手の工藤公康氏が龍ヶ崎キャンパスで「限界をつくらない生き方」をテーマに特別講演を行い、来場者からの質問にも一つ一つ丁寧に回答いただきました。

また、講演後は、小池田学長との対談も行われました。



第46回つくばね祭(龍ヶ崎キャンパス学園祭)開催のお知らせ

10/29(土)
10/30(日)

今年も学生たちがさまざまな企画を用意して皆様のご来場をお待ちしています。

[主なスケジュール(予定)]

- 10/29(土)
 - オープニングセレモニー
 - お笑いライブ
 - 流音祭
- 10/30(日)
 - LIVE
 - グランドフィナーレ/ビンゴ大会

※その他、両日ともに模擬店(やきそば、フランクフルト、やきとりなど多数出店予定)やイベントを企画中です。

[お問い合わせ]

つくばね祭実行委員会
TEL:0297-64-0949
(受付時間13:00～16:00)



※写真は昨年のつくばね祭の様子。

ユニバーシアード競技大会に出場

1



■出場選手

[サッカー]

中里崇宏(ビジネス法学科4年)
比嘉祐介(ビジネス法学科4年)
増田卓也(スポーツ健康科学科4年)

山村和也(ビジネス法学科4年)
河本明人(スポーツ健康科学科3年)
椎名伸志(ビジネス法学科2年)

[新体操]

穴久保瑠子(スポーツ健康科学科3年)
山口留奈(スポーツ健康科学科1年)



8月12日から、中国・深圳で開催された第26回ユニバーシアード競技大会に本学のサッカー部から6名、新体操部から2名が選出されました。

サッカー部からは、選手6名の他に本学の中野監督が代表の総監督、大平コーチが監督として参加。見事優勝し、金メダルとフェアプレー賞を受賞しただけではなく、今大会5得点を挙げた河本選手がMVPに選ばれました。

新体操の2人も健闘し、世界を舞台に貴重な体験をしました。

サッカー部から4選手がJリーグ入団内定

2



9月13日に、Jリーグの入団内定記者会見が龍ヶ崎キャンパスで行われました。

会見では、各選手が内定先のユニフォームを身にまとい、マスコミからの質問に緊張しながらも、将来についての抱負などを語りました。

Jリーグ入団内定選手(写真左から)

DF 比嘉祐介(J1 横浜F・マリノス)
法学部ビジネス法学科
千葉県・流通経済大学付属柏高出身

GK 増田卓也(J1 サンフレッチェ広島)
スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科
広島県・広島皆実高出身

DF 山村和也(J1 鹿島アントラーズ)
法学部ビジネス法学科
長崎県・国見高出身

MF 中里崇宏(J2 横浜FC)
法学部ビジネス法学科
千葉県・流通経済大学付属柏高出身



RKU OPEN CAMPUS 2011

2011年度流通経済大学で開かれるオープンキャンパスは、
10月29日（龍ヶ崎キャンパスにて学園祭と同時開催）をもって終了となります。
今年も多くのご来場いただき、
学生アドバイザーを中心としたスタッフによる説明やキャンパスツアー、模擬授業などで、
本学についてより知っていただくことができたのではないかと思います。
今後も入試相談会をはじめ、キャンパス見学や各種ご相談、資料請求など随時受け付けておりますので、
下記入試センターまでお問い合わせください。



流通経済大学入試センター

☎ **0120-297-141**



✉ ees@rku.ac.jp
🌐 <http://www.rku.ac.jp/go>
📱 <http://www.rku.ac.jp/go/m>



入試相談会

龍ヶ崎、新松戸の両キャンパスにて開催中

〈平日〉 9:00～17:00

〈土曜日〉 10:00～14:00

※開催日はホームページでご確認ください。

<http://www.rku.ac.jp/go>



RKU RYUTSU KEIZAI
UNIVERSITY

流通経済大学広報誌 **RKU Today vol.17** 2011年10月発行
編集・発行／学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室
茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555 TEL：0297-64-0001（代表）

